

～あかるく なかよく たくましく～

○暑い日が続きますね

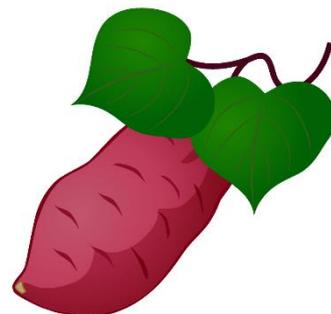
本日から2学期が始まります。学期当初は、授業時間を通常より短くさせていただき、感染拡大を最大限予防しながら、熱中症に気を付け、子供たちが元気に、安心して学ぶことができるように指導を行っていきます。保護者の皆さまには、様々な負担を掛けてしまい、申し訳ありません。子供たちの体調や生活の中での不安など、気になることがありましたら、担任や主事までお話しください。

○8月15日にまつわる記憶

暑い日が続く夏ですが、毎年、「8月15日」が訪れます。1945年のこの日、国内外の多くの方が犠牲となった戦争が終結を迎えました。今は亡き、私の母方の祖母は、この日が近付くと、私に戦時中～終戦直後の話を聞かせてくれました。当時、中学生～高校生だった私は、正直、「また、戦争の話か・・・」と思いながら、聞いていました。

祖母は、戦時中、国民学校の訓導（今の教師のような役割）をしていました。祖母は、学童期（今の小学生～中学生）の子供たちに「鬼畜米英！憎き奴らを竹やりで突き刺せ！」と教えていたようです。こうした話をするとき、祖母は、殺気立った表情をしていました。

一方で、子供たちと芋畑で作業をしているときに、子供たちが、「おらぁ、しろいめし、はらいっぺい、くいてえなー。」「おらは、ほしをみて、ゆっくりねてえなあ。」などと、祖母に話し掛けてきたことは、ほほ笑みながら話してくれました。戦時中とはいえ、祖母は、子供たち一人一人と関わることに幸せを感じていたのではないかと思います。



1945年8月16日、昭和天皇による玉音放送翌日、祖母は、子供たちの前で土下座し、「私は、皆さんにこれまで、鬼畜米英、奴らは敵だと教えてきました。でも、それは嘘でした。本当にごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。」と言い、訓導を辞め、その後、二度と子供たちの前に立つことはありませんでした。

祖母は、私に戦争はいけないことや平和は大事といったことは一切言いませんでした。病に伏して、亡くなる直前も、私に当時の子供たちの話をしていました。

祖母は、何を伝えたかったのだろうと、毎年、8月15日を迎えると考えます。未だに祖母の伝えたかったことは十分に分かりませんが、「相手と誠実に、正直に関わり続けなさい」と言いたかったのではないかと感じます。

コロナ禍の中で新学期が始まります。保護者の皆さまと力を合わせて、子供たちにとってよりよい教育を考え、実践していきたいと思えます。引き続き、よろしくお願ひ致します。

（文責：小学部主事 塚田）